

2019年度まちづくりネットモニター第8回調査結果 テーマ「放射線健康管理について」

東日本大震災に起因する東京電力福島第一原子力発電所の事故から8年以上が経過しました。住宅等の除染により空間放射線量率は震災当時と比べかなり低下しましたが、依然として目に見えない放射線による健康影響について不安を感じている方が多くいらっしゃいます。

本市では、市民の皆様の長期的な健康管理と放射線への不安の解消のため、内部被ばく検査（ホールボディカウンタ検査）を実施しております。

今回のネットモニターでは、本市の放射線に対する取り組みについて皆さんの御意見を参考とさせていただくため、アンケートを実施いたしましたので、その結果についてお知らせします。

(放射線健康管理課)

調査概要

- 調査期間 令和元年8月1日(木)～8月10日(土) (10日間)
- 回答方法 専用ウェブサイトから回答を送信する。
- モニター数 360名 (男性 159名 女性 201名)
- 回答者数 326名 (男性 151名 女性 175名)
- 回答率 90.6%

【結果概要】

《回答者内訳(人)》

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	合計
男性	3	4	15	34	30	21	37	7	151
女性	2	7	44	70	36	14	2	0	175
合計	5	11	59	104	66	35	39	7	326

《心配していること》

- ・放射線の影響に関連して心配なことが「ある」は約7割を占めている。
- ・「ある」と回答した方のうち、放射線に対する不安については、複数回答で「身体や健康のこと」についてが6割以上と最も高く、次に「食べ物のこと」、「廃炉作業のこと」がいずれも5割以上となっている。

《ホールボディカウンタ検査の継続について》

- ・「検査を継続してほしい」・「どちらかといえば検査を継続してほしい」を選択したのは189人(58.0%)で、「検査はもう必要ない」・「どちらかといえば検査は必要ない」を選択したのは137人(42.0%)である。

《検査の継続時期について》

- ・検査の継続希望者(189人)のうち、検査継続の時期に関する質問について、「東京電力福島第一原子力発電所が廃炉となるまで」が最も高く約5割を占めている。

《放射線の不安解消のため市に取り組んで欲しいこと》(複数選択可)

- ・「放射線のモニタリング」が最も高く回答(57.1%)
- ・「食品の安全性の確保」が次に高く回答(56.7%)

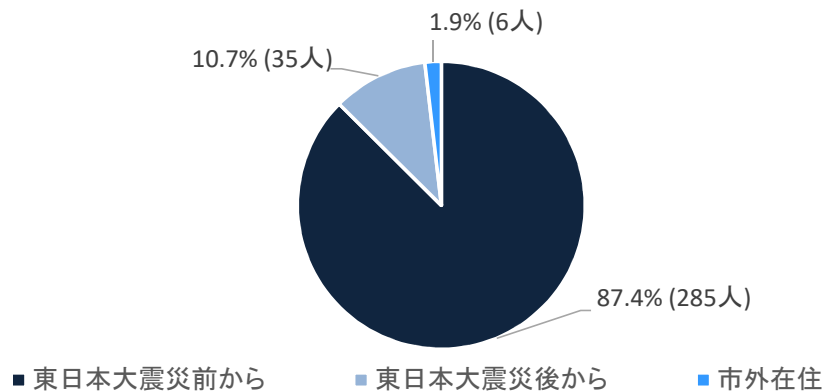
【考察】

- ・ホールボディカウンタ検査の継続については、回答者の58.0%が継続を希望し、42.0%は検査は必要ないと答えている。また、放射線の不安解消のために市で力を入れるべきことについては、「放射線のモニタリング」・「食品の安全性の確保」で、いずれも5割を超えており、今回、回答いただいた方の半数以上が現在の検査体制の継続を望んでいる。
- ・アンケート結果やその他の意見(自由記述)において、「将来」「子ども」「不安・心配」「風評」という言葉が多く見られる。自分自身は検査を受けないが、子どもには検査を受けさせたいという傾向が見られ、また、多くの方が現状の不安より、将来に対する不安を感じている。そのため、今後も放射線に対する長期的な健康管理体制の継続により、市民の放射線への不安解消を図っていくことが必要である。

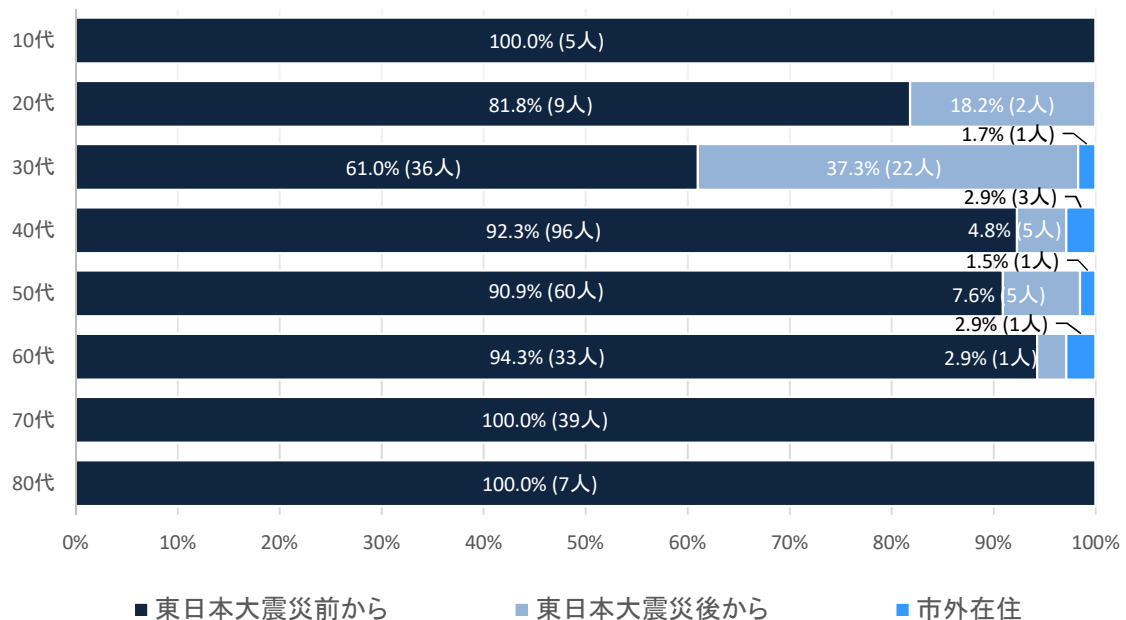
第1章 放射線への不安について

問1 郡山市にいつから住んでいますか？（1つ選択）

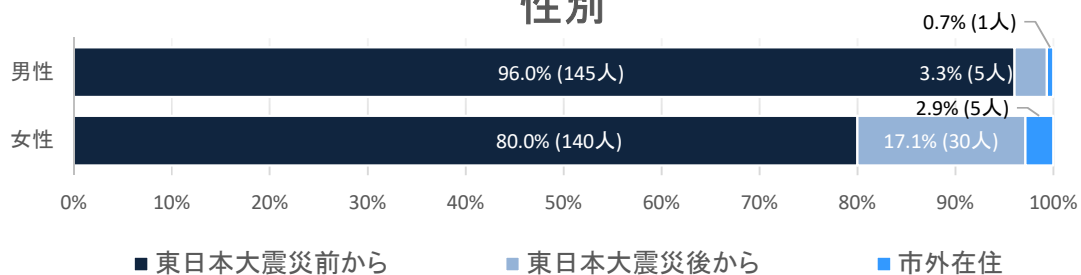
（回答者：326人）



年代別



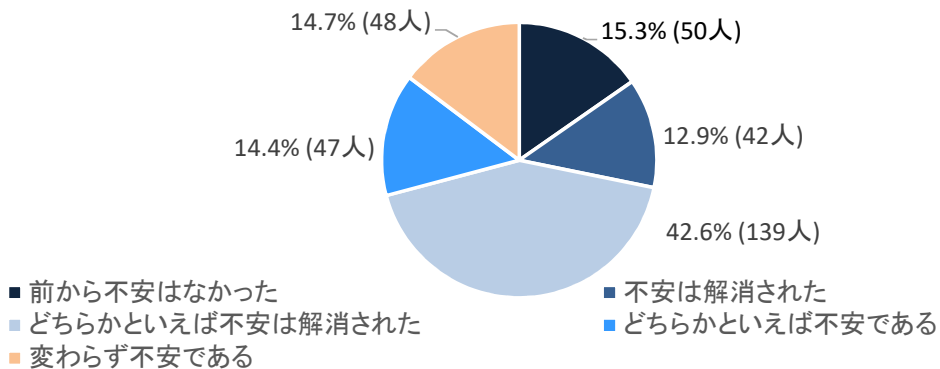
性別



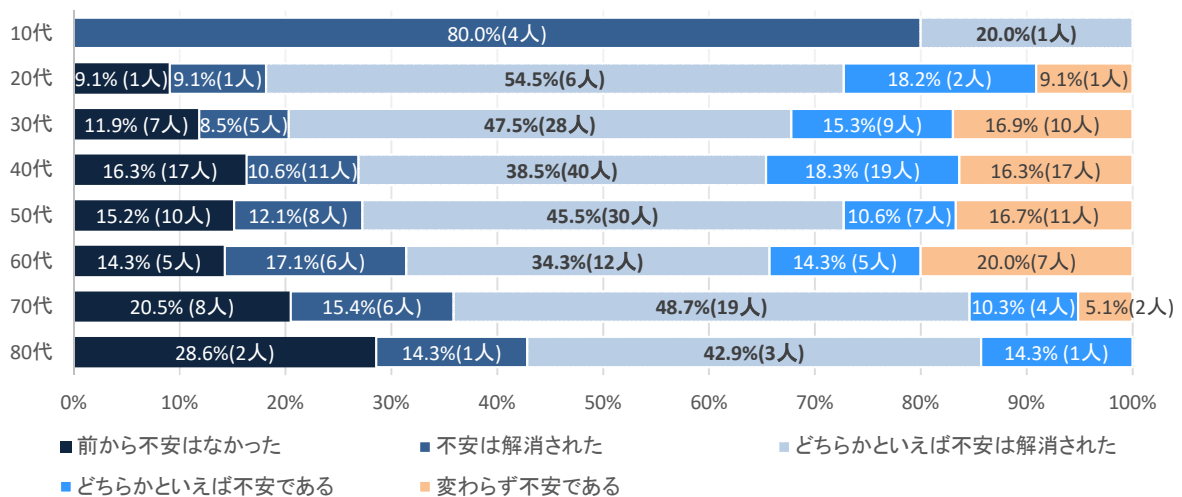
・今回のアンケートの回答者（326人）においては、「東日本大震災前から」本市に住んでいる方が約9割を占めている。

問2 平成29年3月に郡山市内の住宅除染は完了しましたが、完了する前と比べ放射線に対する不安は解消されましたか？（1つ選択）

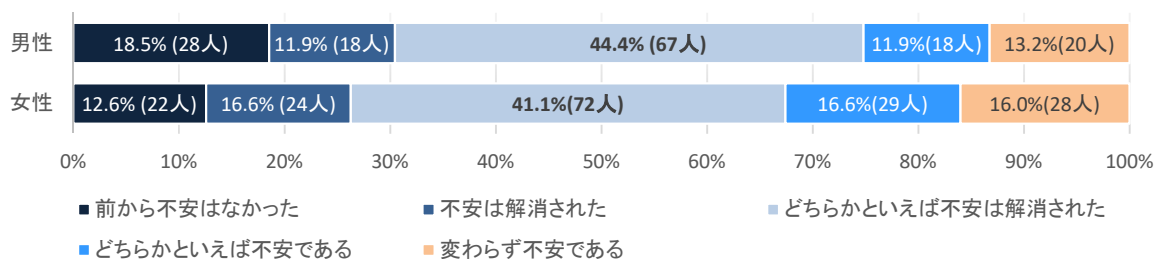
（回答者：326人）



年代別



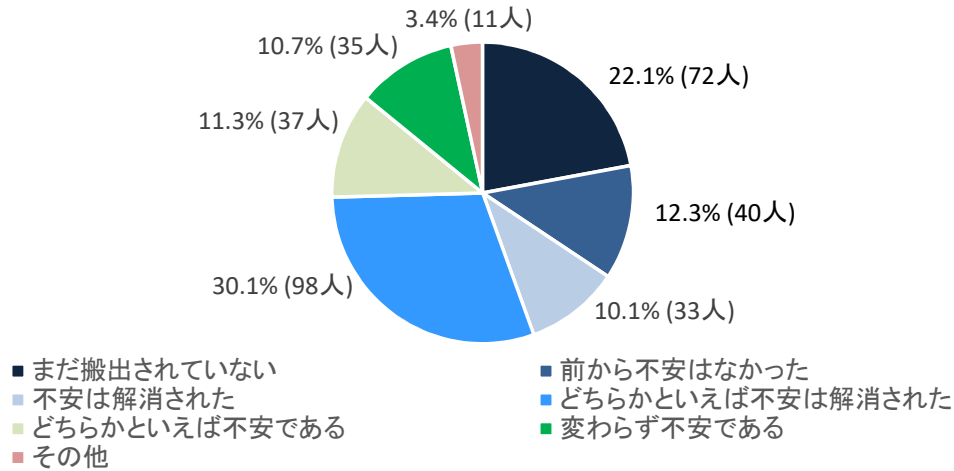
性別



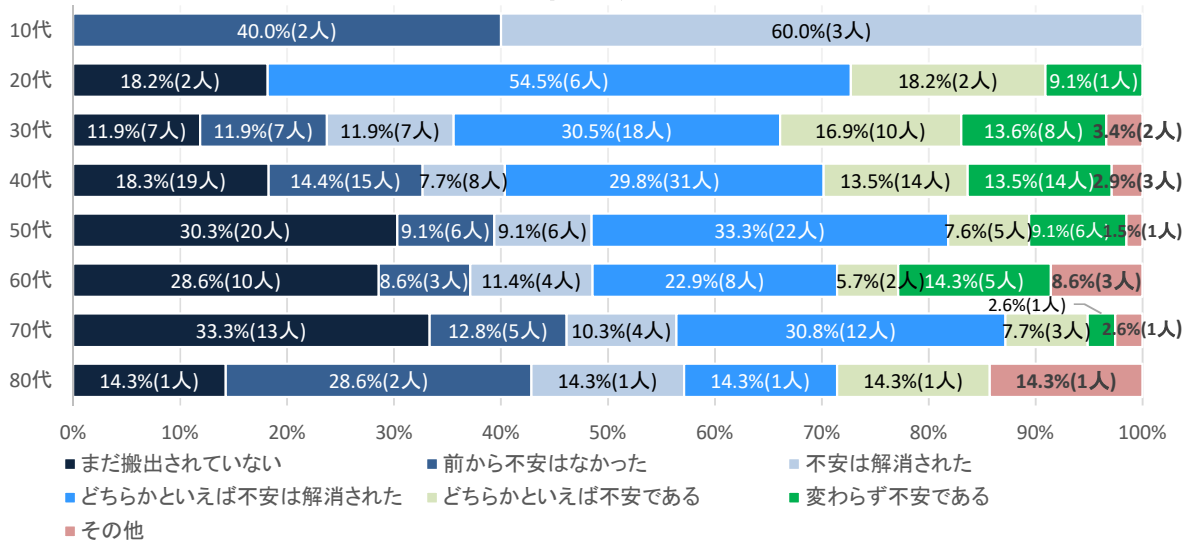
- ・住宅除染が完了する前と比べて、「前から不安はなかった」「不安は解消された」「どちらかといえば不安は解消された」を合わせると、放射線に対する不安が解消された方が全体の約7割を占めている。
- ・年代別では、70代、80代の約8割は放射線に対する不安が解消されている。
- ・性別で「どちらかといえば不安である」「変わらず不安である」と不安を訴えている方は、男性よりも女性の方が割合が高くなっている。

問3 除染の除去土壌等がご自宅から搬出される前と比べ、放射線に対する不安は解消されましたか？（1つ選択）

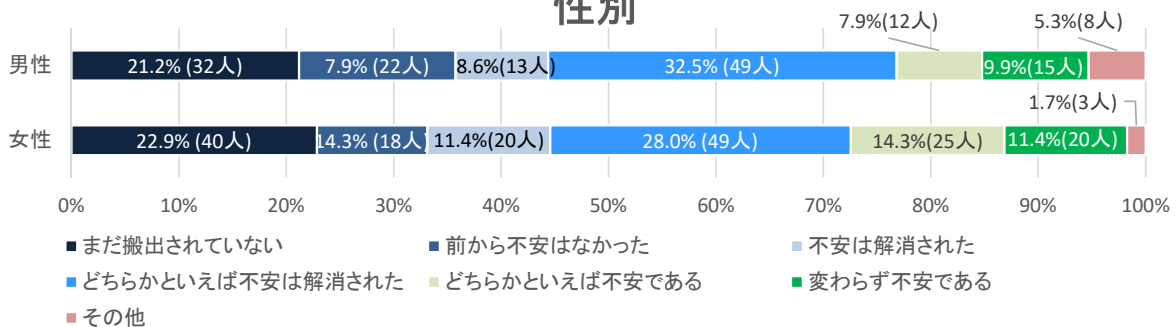
（回答者：326人）



年代別



性別



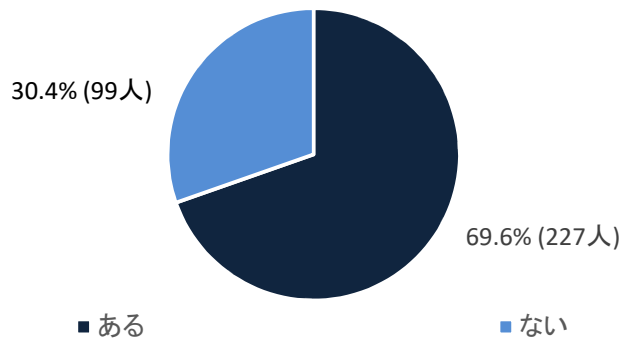
・除去土壌等が搬出される前と比べて、「前から不安はなかった」「不安は解消された」「どちらかといえば不安は解消された」と放射線に対する不安が解消された方は全体の約5割を占めている。

・「その他」を選択した方は、「除染対象地域ではなかった」「除染されたのか分からない」等である。

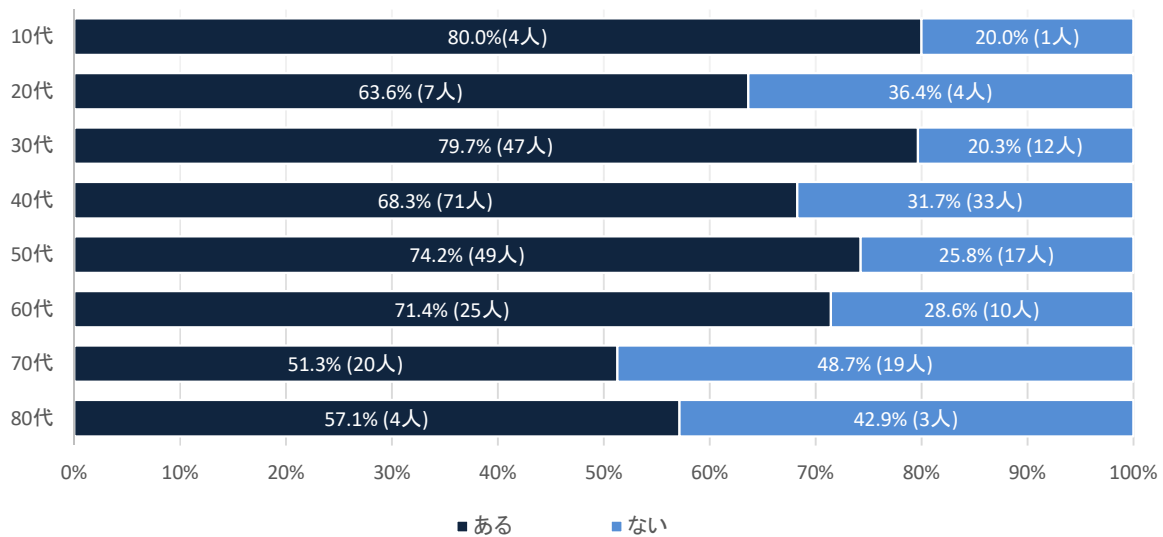
・問2の「どちらかといえば不安である」「変わらず不安である」の割合29.1% (95人)と比較すると、問3の「どちらかといえば不安である」「変わらず不安である」の割合は22.1% (72人)で、7ポイント (23人)減少している。

問4 平成23年の原発事故から8年以上が経過しましたが、放射線の影響に関して心配なことはありますか？（1つ選択）

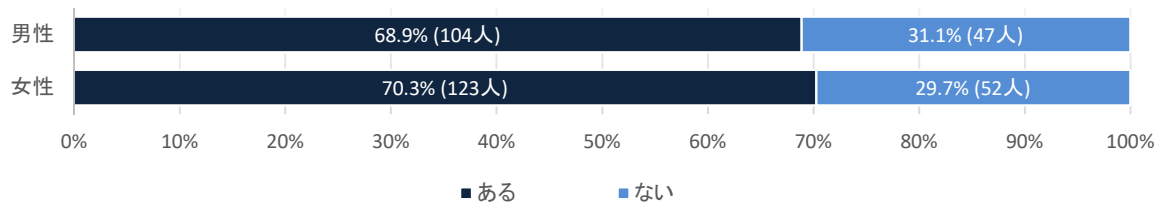
（回答者：326人）



年代別



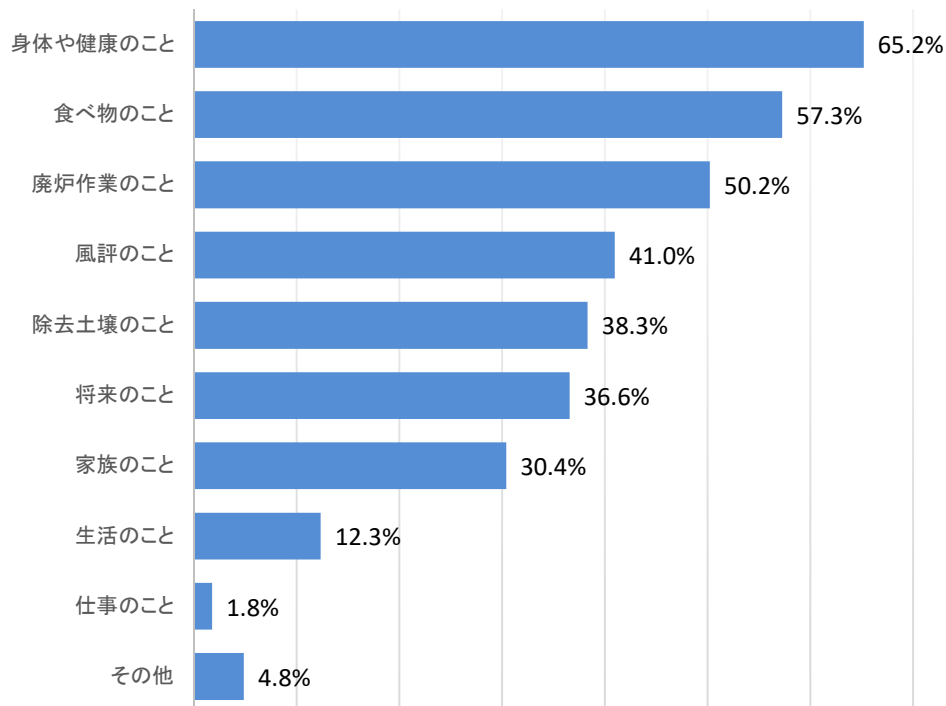
性別



- 放射線の影響に関して心配なことが「ある」は約7割を占めている。
- 年代別では、「ある」の割合が高いのは、10代、30代、50代、60代、40代、20代の順で、70代、80代は「ある」の割合が過半数を超えているが、他の世代よりは比較的低くなっている。
- 性別では、男女とも心配なことが「ある」の割合が約7割を占めている。

問5 問4で「ある」を選択した方にお伺します。どのようなことが心配ですか？
複数選択可

(回答者：227人)



※「その他」を選択した方の主な意見

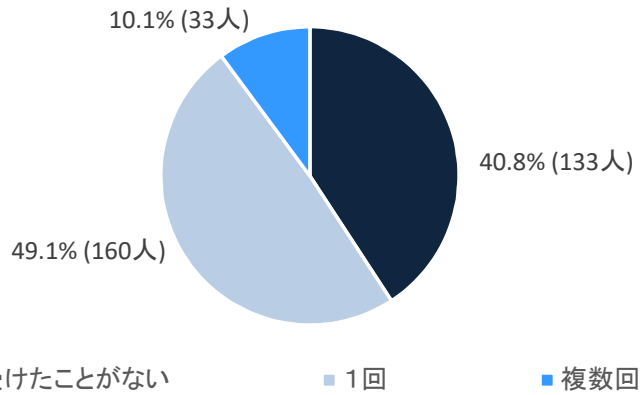
- 家の周り（雨どい等）に未だ放射線量が高い箇所がある。
- 除染を実施していない場所への不安
- 行政に対する不満
- 子どもの健康や将来、また県外に転出した際に受けるかもしれない差別
- 野生動物（野良犬や野良猫も含む）の放射線被ばく量

放射線に対する不安については、複数回答で「身体や健康のこと」についてが6割以上と最も高く、次に「食べ物のこと」、「廃炉作業のこと」がいずれも5割以上となっている。

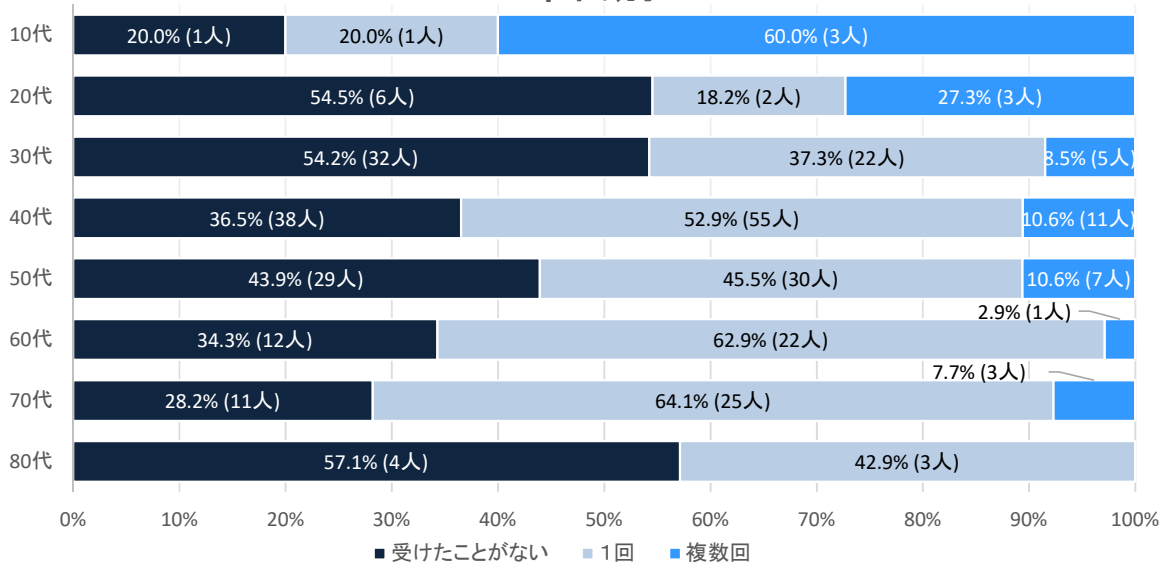
第2章 ホールボディカウンタ検査について

問6 ホールボディカウンタ検査を何回受けましたか？（1つ選択）

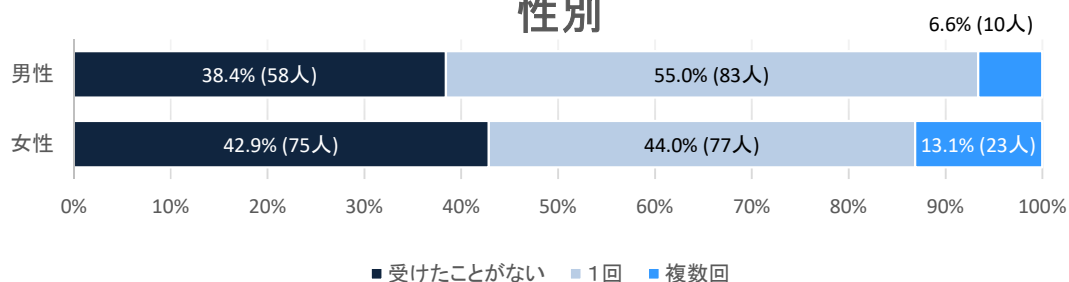
（回答者：326人）



年代別



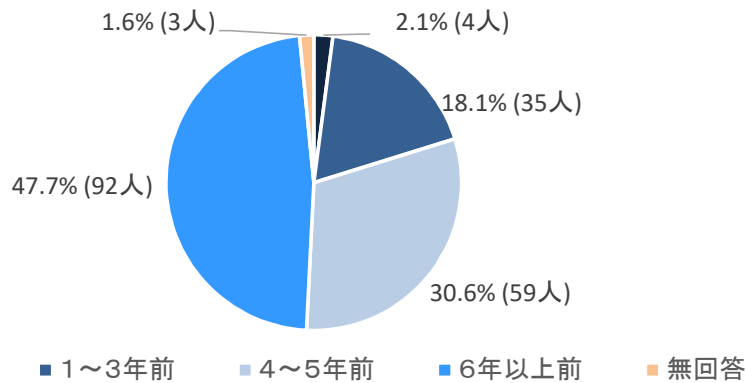
性別



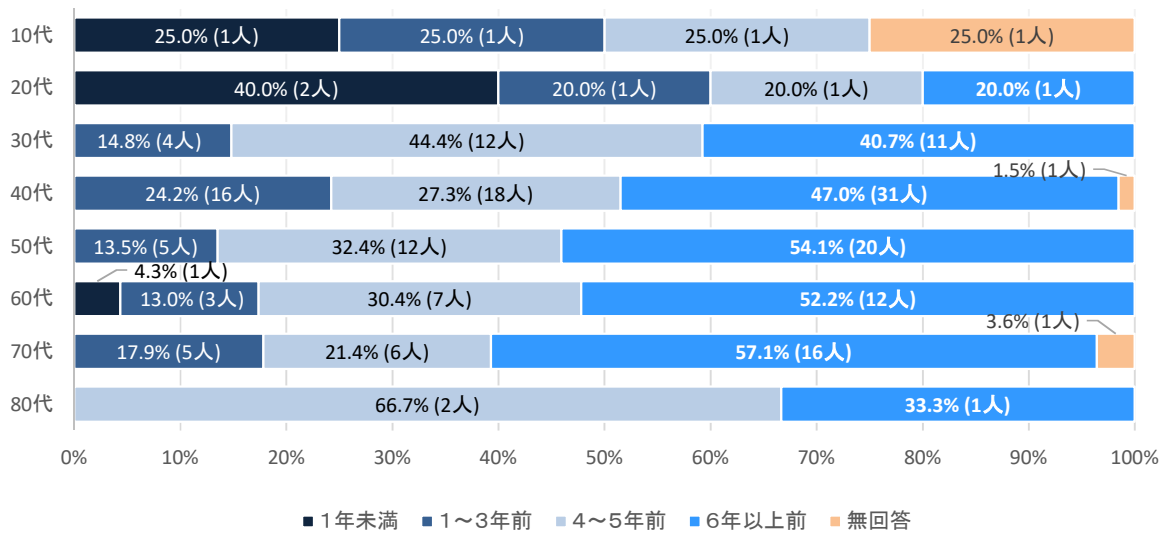
- ・ホールボディカウンタ検査について、「1回」が最も高く約5割を占めている。
- ・年代別では、20代、30代、80代が「受けたことがない」の割合が高く、40代から70代は「1回」の割合が高くなっている。
- ・「複数回」の割合が最も高いのは10代で、約6割を占めている。
- ・性別では、男性は「1回」が約5割以上を占め、「受けたことがない」も約4割を占めている。女性は「1回」と「受けたことがない」がほぼ同数であり、「複数回」を回答した割合は男性よりも女性の方が6.5ポイント高くなっている。

問7 問6で「1回」「複数回」を選択した方にお伺いします。
最後に検査したのはいつですか？（1つ選択）

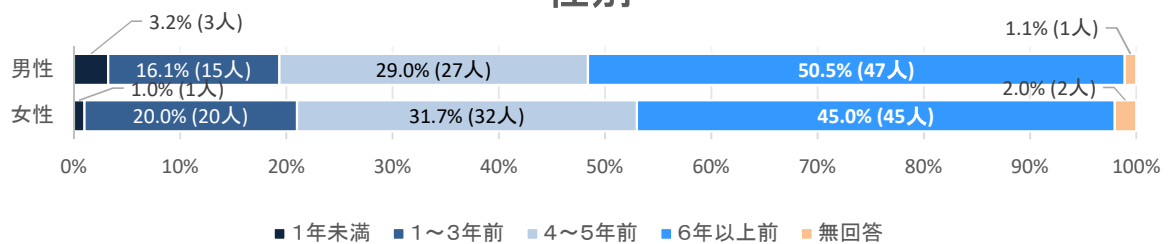
（回答者：193人）



年代別



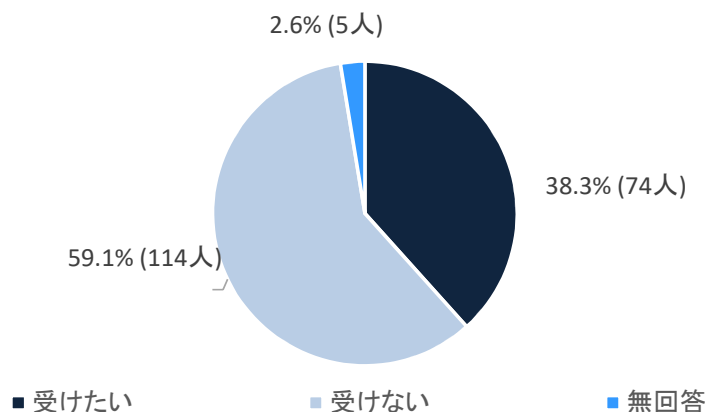
性別



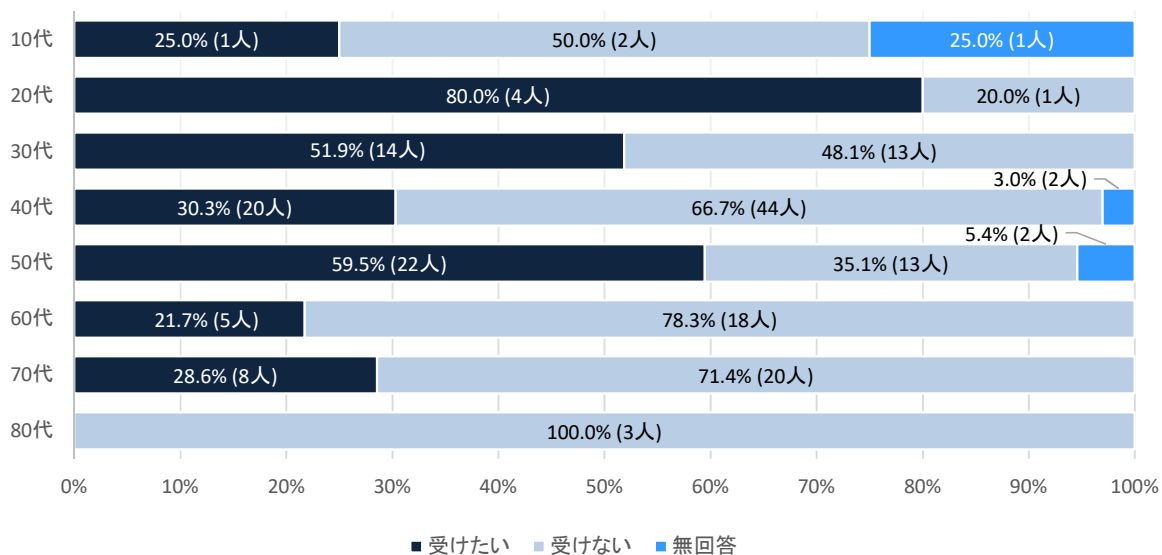
- ・受検者（193人）を対象に、最後に受けた検査時期に関する質問では、「6年以上前」に受けた方が約5割で最も高くなっている。
- ・年代別では、10代、20代では「1年未満」の割合が高く、30代では「4～5年前」、40代から70代は「6年以上前」の割合が最も高く、80代は「4～5年前」が高くなっている。
- ・性別では、男女ともに、「6年以上前」、「4～5年前」、「1～3年前」、「1年未満」の順になっている。
- ・傾向として、原発事故から間もない時に検査した割合が高く、事故からの経過年数が経つにつれ、検査を受ける割合が低くなっている。また、80代を除いて、年齢が高いほどその傾向が見られる。

問8 問6で「1回」「複数回」を選択した方にお伺いします。
 今後も検査を受けますか？（1つ選択）

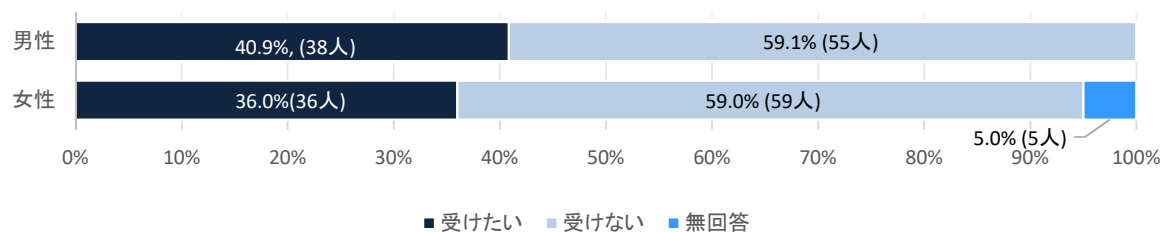
（回答者：193人）



年代別



性別



- ・今後の検査希望に関する質問では、今後の検査を「受けない」は約6割を占めている。
- ・年代別で、「受けたい」の割合が最も高いのは20代で8割、次いで50代が約6割を占めている。「受けない」の割合が最も高いのは80代で、次いで60代、70代、40代と続いている。
- ・性別では、男女とも「受けない」が約6割を占めている。

※問8の「選択した理由をご記入ください」との質問で、主な理由について。

○「受けない」と回答した方の主な理由（32名）

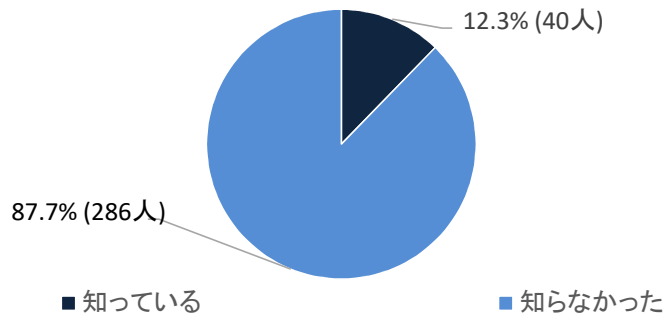
- ・この検査でしかわからないことがあるから
- ・現在の身体の状態を知りたい。
- ・放射能の影響が有るか無いか知りたい。
- ・定期的に検査を受けると安心できると思うので
- ・精神的な安心感を得たいから
- ・過去に実例が無く不安だから
- ・健康な日々を送りたいから
- ・今後の人体への影響が心配

○「受けない」と回答した方の主な理由（64名）

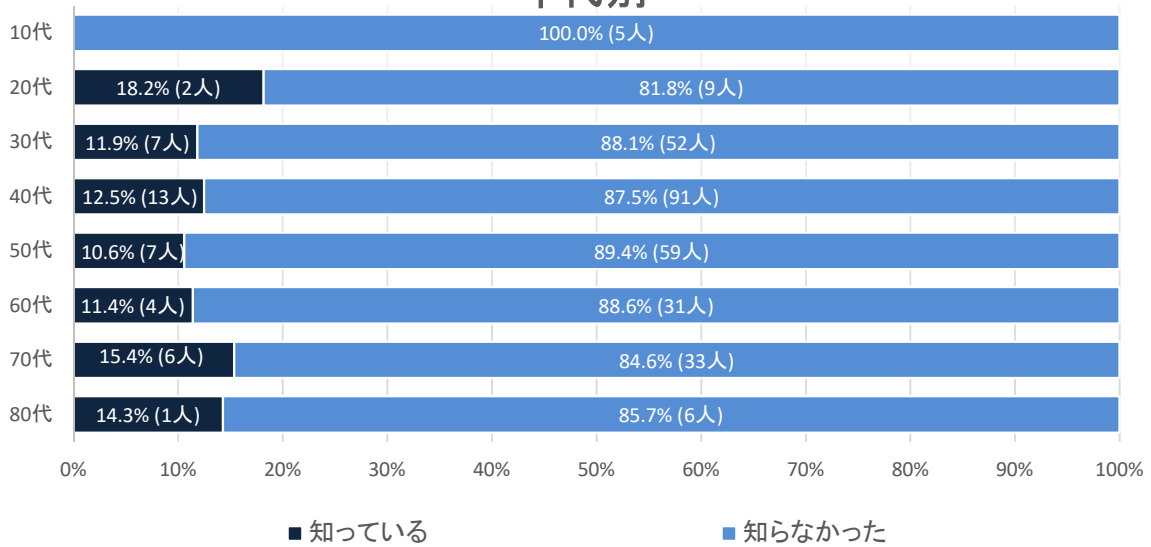
- ・必要性を感じていない
- ・もう心配していないから
- ・1回目の検査で異常が無く、その後は異常になることが考えにくいので
- ・子どもが受けており、結果は異常なしなので、親の自分も同じような食事、生活を送っているから
- ・年齢的に影響は少ないと思うので
- ・平日に仕事を休めないし、結果も「異常なし」だろうから、受ける意味が見いだせない
- ・データで見ても安心がない。

問 9 現在19歳以上の方については、電話及びインターネットにより検査を随時受付け
 していますが、ご存知ですか？（1つ選択）

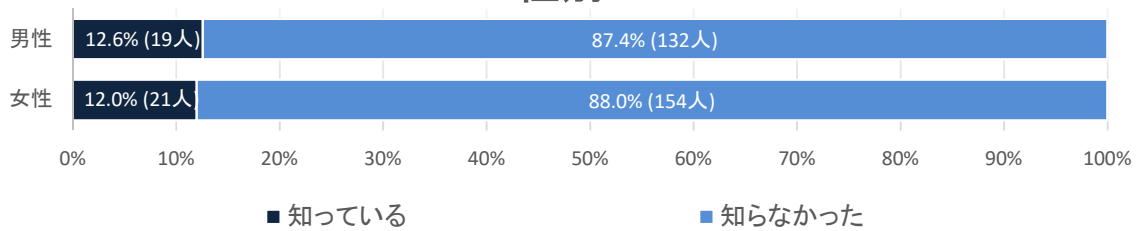
（回答者：326人）



年代別

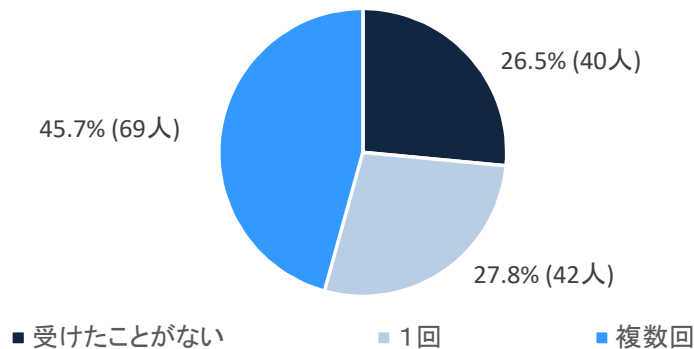


性別



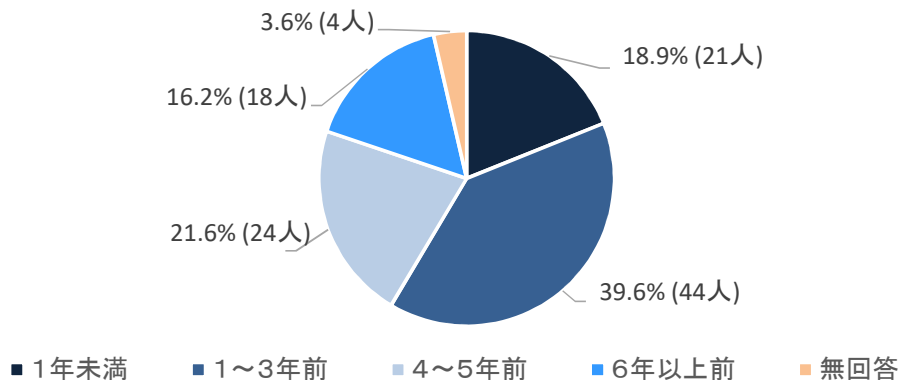
- ・19歳以上のホールボディカウンタ検査を随時受付していることについては、「知らなかった」が約9割を占めている。
- ・年代別では、10代を除き、どの年代も「知らなかった」割合が8割以上を占めている。
- ・性別では、男女とも「知らなかった」が8割以上を占めている。
- ・アンケート結果を踏まえ、19歳以上の市民の方に対するホールボディカウンタ検査の随時受付について周知する必要がある。

問10 18歳以下のお子様がいいらっしゃる方にお伺いします。
 (複数人いらっしゃる場合は、回数を多く受検している方についてお答えください。)
 ホールボディカウンタ検査をお子様は何回受けましたか？ (1つ選択)
 (回答者：151人)



- お子様のホールボディカウンタ検査について、受検の回数が最も高いのは「複数回」で約5割を占めている。
- 問6のアンケート結果では「複数回」の割合が10.1%で、問10の結果の方が35.6ポイント高くなっている。

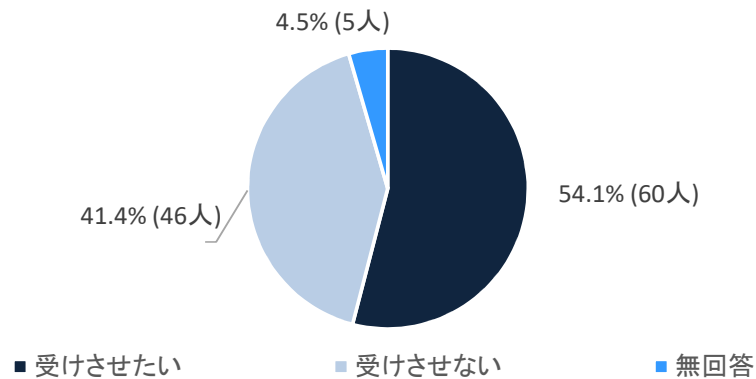
問11 問10で「1回」「複数回」を選択した方にお伺いします。
 最後に検査したのはいつですか？ (1つ選択)
 (回答者：111人)



- 受検者 (111人) を対象に、最後に受けた検査時期に関する質問では、「1～3年前」に受検したが最も高く約4割を占めている。
- 問7で「1年未満」、「1～3年前」の割合20.2%と比較すると、問11の「1年未満」、「1～3年前」の割合は58.5%で、38.3ポイント高くなっている。

問12 問10で「1回」「複数回」を選択した方にお伺いします。
今後も検査を受けさせたいと思いますか？（1つ選択）

（回答者：111人）



- ・今後の検査希望に関する質問では、今後の検査を「受けさせたい」は5割以上を占めている。
- ・問8で「受けたい」の割合38.3%と比較すると、問12で「受けさせたい」の割合は54.1%で、15.8ポイント高くなっている。

※問12の「選択した理由をご記入ください」との質問で、主な理由について。

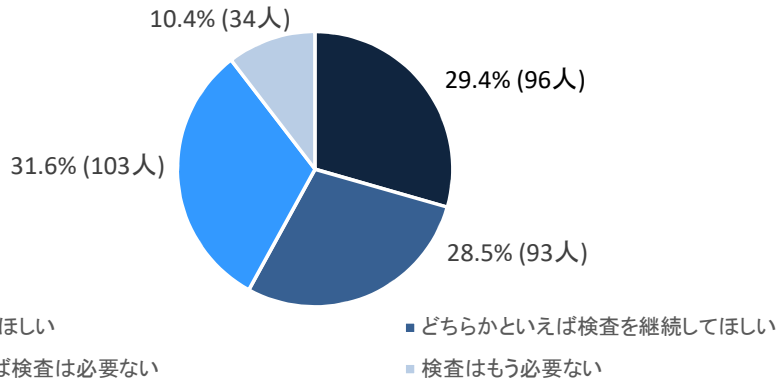
○「受けさせたい」と回答した方の主な理由（25名）

- ・まだ不安があるので
- ・不安を感じた時には受けさせたい。
- ・心配だから
- ・子どもこそ定期的に検査する必要があると感じるので
- ・子どもたちはいつまでも心配なので機会がある限りはなるべく受けさせたい。
- ・経過を確認したいから
- ・健康被害が気になるため
- ・受けたいと考えた時に受けたい。

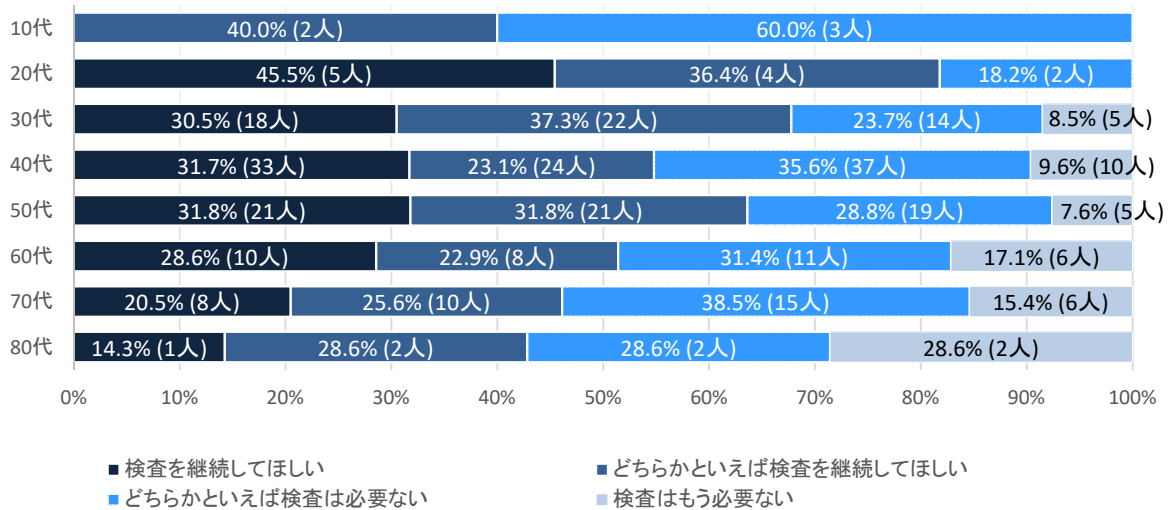
○「受けさせない」と回答した方の主な理由（28名）

- ・必要性を感じないから
- ・もう心配していないから
- ・受けた結果、特に問題が無い数値だと認識したため
- ・8年も経っているので、体の中の放射線は対外に排出されたと思っているから
- ・時間が取れない。
- ・平日は仕事を休めないし、結果もほぼ分かっているため
- ・本当の結果かどうか、わからないから

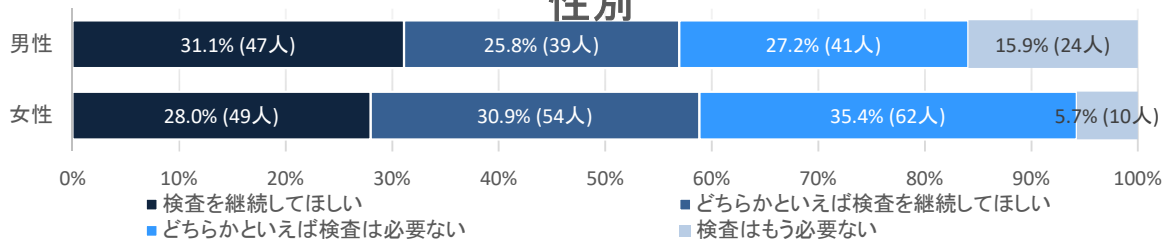
問 13 ホールボディカウンタ検査については、開始から8年目を迎えており、検査人数は年々減少しております。今後も検査を継続してほしいですか？（1つ選択） （回答者：326人）



年代別



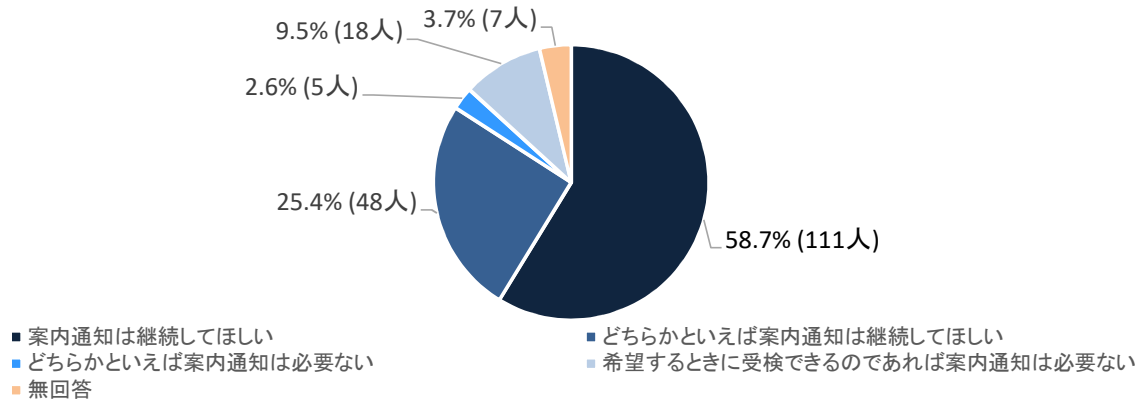
性別



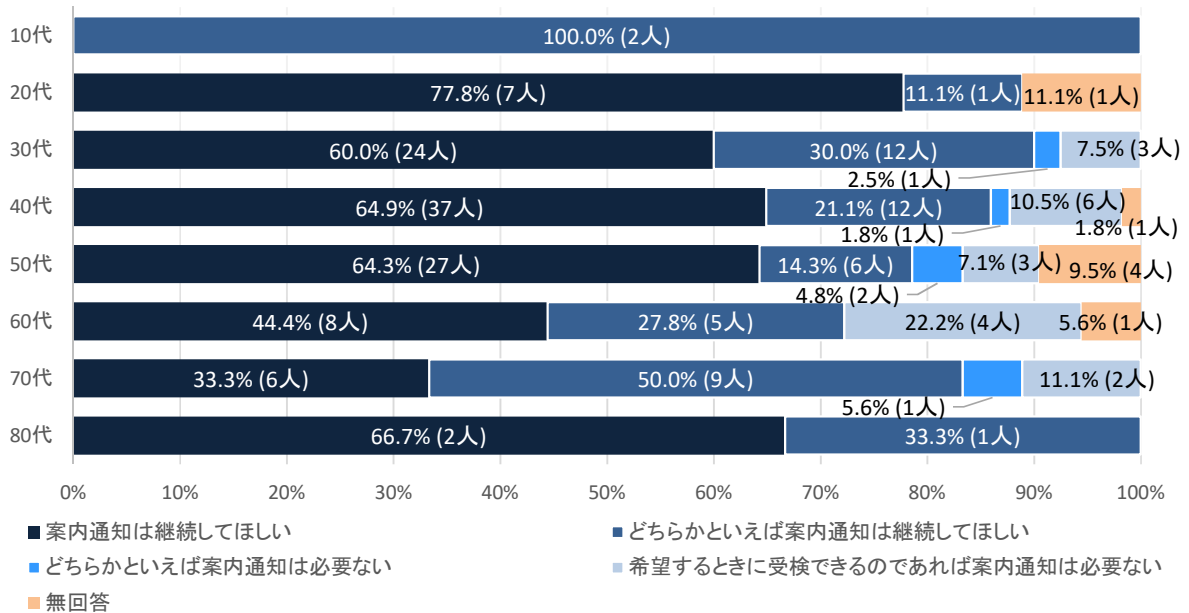
- ・「どちらかといえば検査は必要ない」が最も高く、3割以上を占めている。
- ・「検査を継続してほしい」「どちらかといえば検査を継続してほしい」を選択したのは189人(58.0%)で、「検査はもう必要ない」「どちらかといえば検査は必要ない」を選択したのは137人(42.0%)である。
- ・年代別では、「検査を継続してほしい」の割合が高い年代は、20代、50代、40代、30代で、「どちらかといえば検査を継続してほしい」の割合が高い年代は、10代、30代、20代、50代、「どちらかといえば検査は必要ない」の割合が高い年代は、10代、70代、40代、60代が高くなっている。「検査はもう必要ない」の割合が比較的高いのは80代となっている。
- ・性別では、男女とも検査を継続するが約6割を占めているが、男性は「検査を継続してほしい」が最も高く、女性は「どちらかといえば検査は必要ない」が最も高くなっている。

問 14 問13で「検査を継続してほしい」「どちらかといえば検査を継続してほしい」を選択した方にお伺いします。
案内通知を今後も継続してほしいですか。(1つ選択)

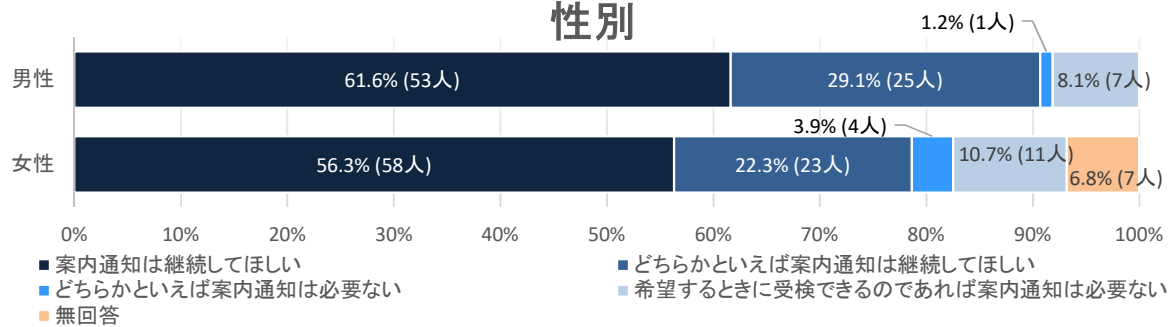
(回答者：189人)



年代別



性別



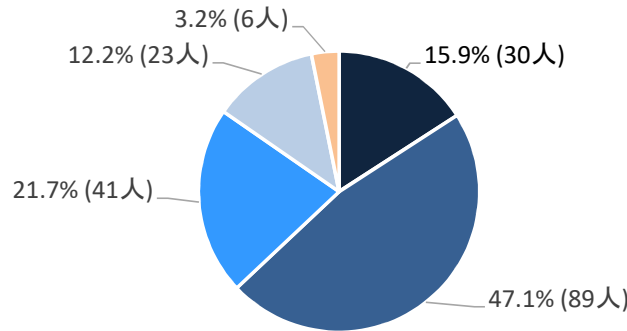
※「その他」を選択した方の主な意見

- 希望する人がいる限り続けてほしいです。
- 今回のような放射線の影響が、どのように出るのかデータがある訳ではないので、今後数十年単位で続けるべき。
- 市民の不安感と風評被害が無くなるまで。
- 国の責任として不安を感じた時に受診できる制度はあってほしい。
- 廃炉完了後30年くらいは継続してほしい。健康被害はすぐに出るとは限らない。

- 検査の継続希望者のうち、「案内通知を継続してほしい」が58.7%と最も高い。「どちらかといえば案内通知は継続してほしい」の25.4%と合わせると、案内通知の継続希望者は約9割を占めている。
- 年代別では、「案内通知は継続してほしい」は20代、80代、40代、50代、30代と高く、「どちらかといえば案内通知は継続してほしい」は10代、70代が高い。「希望するときに受検できるのであれば案内通知は必要ない」は60代が他の年代と比べ比較的高くなっている。
- 性別では、男女とも「案内通知を継続してほしい」が最も高く、次に「どちらかといえば案内通知は継続してほしい」が続いている。

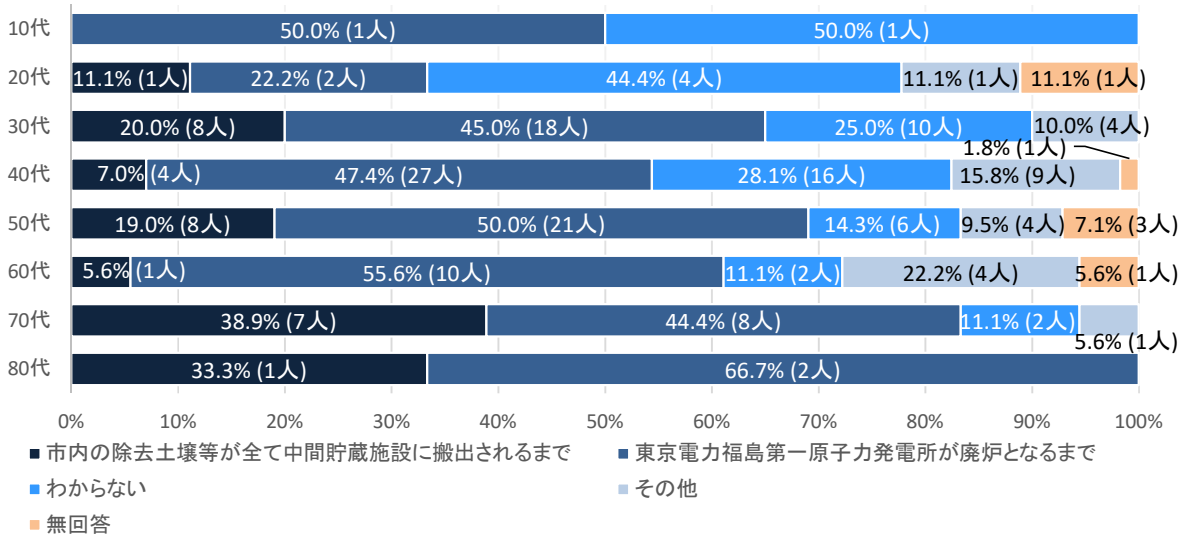
問 15 問13で「検査を継続してほしい」「どちらかといえば検査を継続してほしい」を選択した方にお伺いします。
検査はいつまで継続すべきと考えますか。(1つ選択)

(回答者：189人)

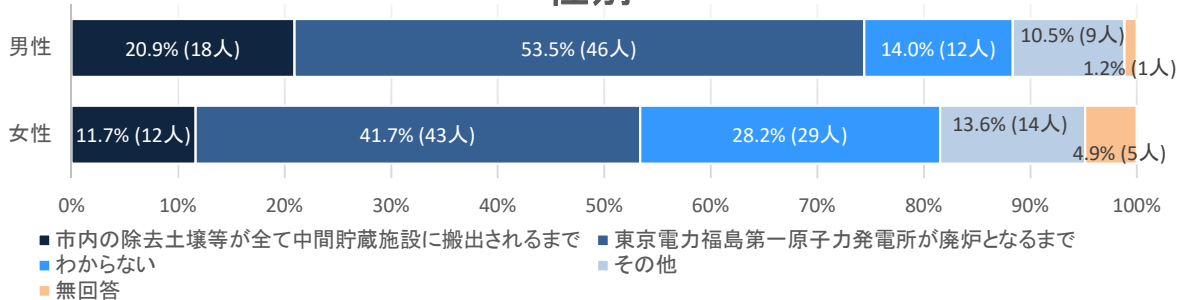


- 市内の除去土壌等が全て中間貯蔵施設に搬出されるまで
- 東京電力福島第一原子力発電所が廃炉となるまで
- わからない
- その他
- 無回答

年代別



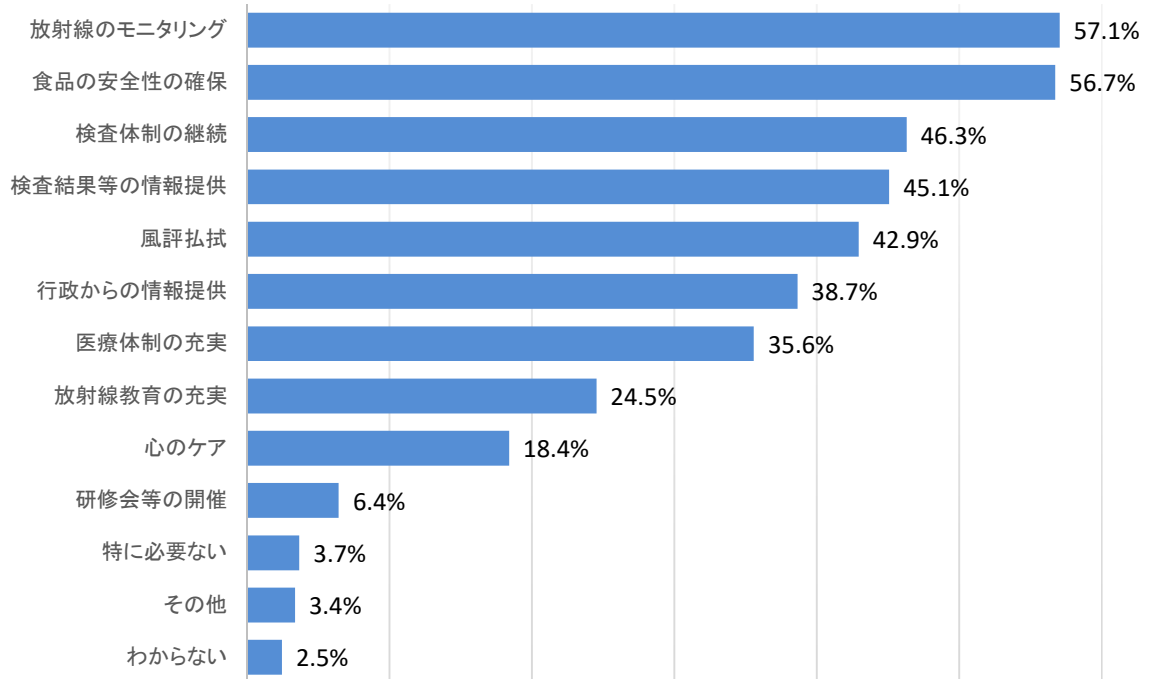
性別



- ・検査の継続希望者のうち、検査継続の時期に関する質問について、「東京電力福島第一原子力発電所が廃炉となるまで」が最も高く約5割を占めている。
- ・年代別では、「市内の除去土壌等が中間貯蔵施設に搬出されるまで」の割合が高い年代は70代が比較的高く、「東京電力福島第一原子力発電所が廃炉となるまで」の割合が高いのは60代、50代の順に高い。「わからない」は20代が高くなっている。(なお、少数回答である10代と80代は除く。)
- ・性別では、男女とも「東京電力福島第一原子力発電所が廃炉となるまで」の継続希望が高くなっている。

問 16 今後、放射線に対する不安を解消するために、郡山市ではどのようなことに力を入れるべきだと思いますか？（複数選択可）

（回答者：326人）

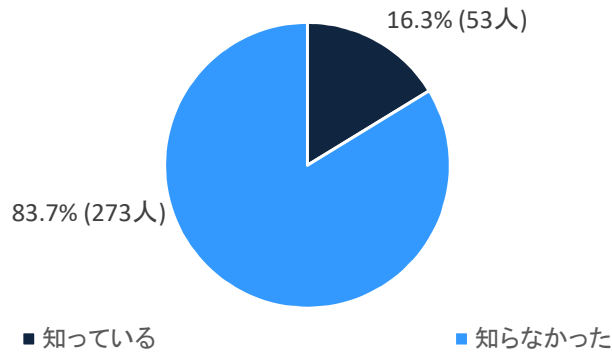


※「その他」を選択した方の主な意見

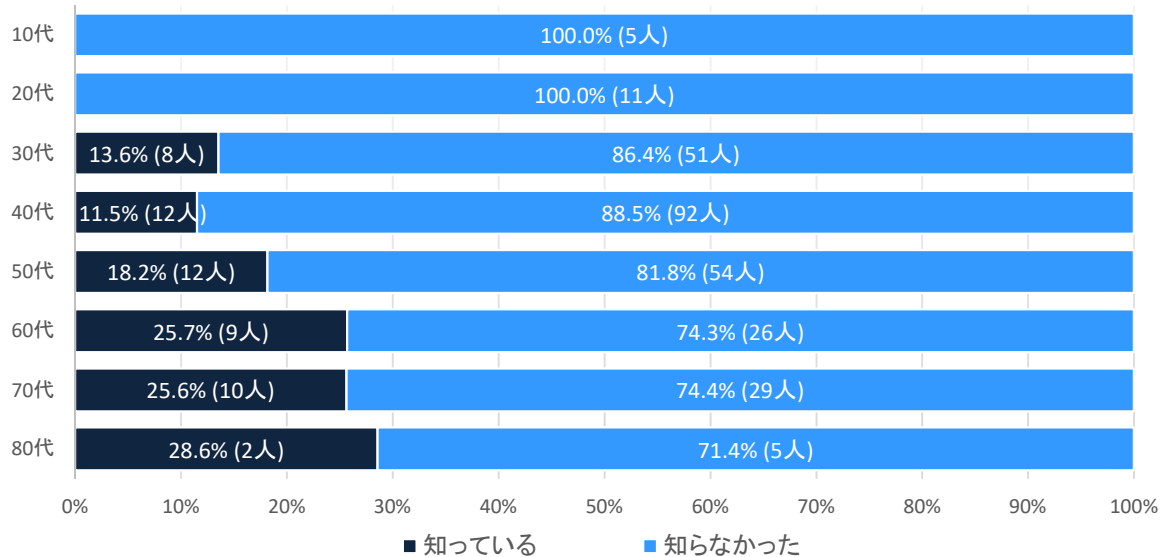
- ・健康講座をもっと活発に開催し、幅広く取り組むべき、少なすぎます！
- ・まだ除染が出来ているとは言い難い。
- ・信頼性を感じられる見せ方での情報・データの公表
- ・子どもが安心、安全に遊べる場所の提供
- ・原発廃炉除去県外搬出を早く終わらせる指導
- ・環境整備

- ・「放射線のモニタリング」「食品の安全性の確保」が複数回答でいずれも約6割を占め、「検査体制の継続」「検査結果等の情報提供」が約5割と続いている。
- ・放射線に対する不安解消には、多くの方が放射線のモニタリングや現在の検査体制の継続を望んでいる。

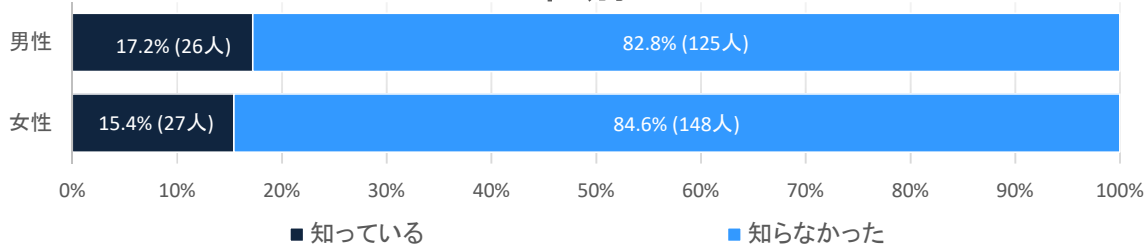
問 17 郡山市では、市の職員が講師として、いつでも、市内のどこにでも伺う「市政きらめき出前講座」を行っています。
放射線に関連した出前講座があることを知っていますか。（1つ選択）
(回答者：326人)



年代別



性別



- ・出前講座については「知らなかった」が約8割を占めており、市民の認知度が低くなっている。
- ・年代別では、10代、20代の方が「知らなかった」と回答。市民の年齢を重ねるにつれ、「知っている」の割合が高くなっている。
- ・性別では、男女とも「知らなかった」方が8割を超えている。
- ・市民の不安解消を図るために、放射線に関する正しい知識の普及啓発や出前講座等のリスクコミュニケーションを推進していく必要がある。

問 18 その他、ご意見がございましたら、ご記入ください。(自由記述)

(回答者：90人)

検査体制の継続について

- ・目に見えるものが相手ではないので、なかなか風評や心配は無くならないものだなと思っています。故にこそモニタリングやホールボディカウンタ検査は費用対効果としてはコストではないのかも知れませんが、営利企業ではない行政だからこそできる事業と思いますので、これまで同様の体制での継続を願います。(40代・男性)
- ・甲状腺検査はいつまでも必要だと感じるが、ホールボディ検査は何か心配なことが無い限り検査の必要性は無いと思います。もし、心配なことがあれば、個人的に検査を受けられれば良いと思います。(30代・女性)
- ・ある程度の縮小はあっても継続願います。(70代・男性)
- ・転勤してきた当初は不安があり、独自で調べたりもしましたが、モニタリングポスト以外で駐車場の隅などで、線量が高いホットスポットがあったり、幼児の高さで測ると高くなる場所がありました。
私はその現状を認識して受け入れ、気にせず暮らせていますが、過敏な人は不安になると思います。信頼あるデータや裏付けで、各々が考えて結論を出すことが大切に思います。
気にしすぎは良く無いと思いますが、根に少なからず不安感を持つ人に安心感を与えるため、検査やモニタリングは継続してほしいです。特に食に関する安全性情報は、子育て中の身としては大変重要に思います。美味しいものが多いので、全国での価値をさらに高めるためにも厳格に検査して、一番安全であるということをPRして盛り上げてほしいです。(30代・男性)

放射線について

- ・もう歳も歳なので、日常は、放射線の事とかすっかり忘れてしますし、私は、もういいかなと思っていますが、若い人や、小さいお子さんをお持ちの方々には心配な事と思います。福島にいる人と他県の人との結婚が難しいとの話も聞いています。今だに、福島食品などは、食べないという話も聞きますし、今が旬の桃なども、いらないと言われたと、今だに聞きます。廃炉も遅れているようですし、その点は特に心配です。また、大きな地震が来たら……と。心配すればキリがありません。(60代・女性)
- ・環境放射能について、感心が薄れてきていますが、もう一度、原点に戻り考えてみたいと思います。(50代・男性)
- ・今は何事もなかったかのように暮らしていますが、放射線については色々な説明が錯綜していて、学術的に見て本当は安全なのかどうかいまだに放射線の正しい情報が100%は理解できてないと思います。(30代・女性)
- ・放射線の影響は、原発が廃炉になった後もさらに長い間続くので、長期にわたってその対策を行っていくことを望みます。県民が安心して生活できるように行政が先頭になって、活動することが大切だと思います。(50代・女性)

風評払拭について

- ・今でも福島県は危険と思っている人が多いので、完全に風評払拭できるように頑張ってもらいたい。(10代・男性)
- ・実際のところ生活していて放射能についての不安を感じることは無い。取り組むべきは風評払拭である。他県・他国の人間に云われなき差別を受けることにストレスを感じている。一方、福島県は健康寿命の都道府県比較において下位に甘んじているのも事実。こちらにも隙がある。(50代・男性)
- ・2011年以降に福島で産まれた子が大人になり社会にでて結婚出産するまで、風評被害はあると思います。昨年、他県に旅行に行くと福島からですって言うだけで、次の言葉はたいへんね～と言われました。今は福島の中で生活している子どもたちが、福島をでて生活する事になった時が心配です。(30代・女性)

その他

- 放射能って人それぞれ考え方が違うと思う。
わたしみたいに何も気にしない人がいる一方で、郡山に住んでいても自主避難してる人がいる。不安な方には安心してもらえる環境(情報提供や相談窓口の設置)を整えることが行政の役割かと。
(40代・女性)
- 震災当初から様々な放射線の講演会が行われていたが中には、市の教育委員会が後援になっているにも関わらず不安を煽るような人物の物があつたりして正直行政の無知感が市民の不安を大きくさせた部分も少なからずあると思う。不安を抱えている人ばかりを支援するのではなく、元気に頑張っていますと言う情報発信を行なっている人にも目を向けて支援しても良いのではないかと思う。
(30代・女性)
- 初めての原子力災害で不安があるのは否めない事実です。検査が不安を解消する為にも必要だという意見があるのも事実です。
そういった民意があることも念頭において検査体制の継続の是非を問うてもいい時期が近づいているのも事実です。検査をする根拠というものを定義する諮問委員会の様なものを組織してもいいのではないのでしょうか？
また、検査対象者も諸条件で分けるのも案ではないのでしょうか？
この問題はデリケートで、街中では意見を言わずらい面があります。(様々な立場があるので)放射線に不安を感じる市民とそうでない市民双方の意見を収集したうえで数年ぐらいかけて決めることができれば良いと思います。
プラス思考で市民あるいは県民が生活できるように科学的かつ、経済的な解決策を見つけ出すことが大切だと思います。
(40代・男性)